

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	15HP1001	事業期間	平成 27 年度～平成 31 年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
薬理学における日本からの情報発信強化の取組		公益社団法人 日本薬理学会	理事長 赤池 昭紀
学術刊行物の名称			(略称)
Journal of Pharmacological Sciences			JPS

【平成 29 年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
○ A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>海外からの投稿は全体の 30%前後だが、そのうち中国からが 60-70%を占める。しかし、中国及びその他の海外投稿の採択率は約 15%程度と非常に低く、採択率が 60%台である日本の論文が支えるというアンバランスな状況にある。</p> <p>総説掲載によるインパクトファクターの上昇により原著論文の質の向上を期待するなど、国際情報発信強化の対策は見られるが、施策は一般的であり、効果は限定的であろう。現在の計画では実現は難しいと思われるため、質の高い原著論文の投稿を増加させるための新たな積極的な施策が望まれる。</p> <p>助成期間終了後の経済基盤についてはある程度考慮されているが、『投稿・査読料無料、オンライン無料公開の継続』が本当に可能であるかは疑問である。</p>	